



Windowsのよく使うコマンド集

チートシート

ファイル名を指定して実行 (Win+R) ・ コマンドプロンプト ・ PowerShell ・ Gitの定番コマンドを、用途から探してワンクリックでコピー。

ファイル名を指定して実行 (Win+R) | 設定・管理画面

control	コントロールパネルを開く。
appwiz.cpl	「プログラムと機能」 (アプリのアンインストール画面) を開く。
ncpa.cpl	ネットワーク接続 (アダプターの設定) を開く。IPアドレスの手動設定に。
sysdm.cpl	システムのプロパティ (PC名・環境変数・リモートの設定) を開く。
devmgmt.ms c	デバイスマネージャーを開く。ドライバーの確認に。
services.m sc	サービスの一覧を開く。
eventvwr.m sc	イベントビューアー (エラーの記録) を開く。
compmgmt.m sc	コンピューターの管理 (ディスク・ユーザー・共有フォルダー) を開く。
taskschd.m sc	タスクスケジューラ (定期実行) を開く。
msinfo32	システム情報 (CPU・メモリ・BIOS) を詳しく表示。
winver	Windows のバージョンとビルド番号を表示。
resmon	リソースモニター。どのアプリが通信・ディスクを使っているか分かる。
cleanmgr	ディスククリーンアップ (不要ファイルの削除)。

ファイル名を指定して実行 (Win+R) | フォルダ

shell:startup	スタートアップフォルダを開く。ここに置いたショートカットはログイン時に自動で起動する。
shell:sendto	右クリックの「送る」のフォルダを開く。よく使うフォルダを登録できる。
%temp%	一時ファイルのフォルダを開く。容量の掃除に。
%appdata%	アプリの設定が保存されるフォルダ (AppData\Roaming) を開く。
shell:downloa ds	ダウンロードフォルダを開く。
\\サーバー名 \共有名	ネットワーク上の共有フォルダを開く。

ファイル名を指定して実行 (Win+R) | アプリ

cmd	コマンドプロンプトを起動。Ctrl+Shift+Enter で管理者として起動。
powershe ll	PowerShell を起動。
notepad	メモ帳を起動。
calc	電卓を起動。
snipping tool	切り取り & スケッチ (画面キャプチャ) を起動。Win+Shift+S でも可。
mstsc	リモートデスクトップ接続を起動。
excel /safe	Excel をセーフモードで起動 (アドインが原因の不具合の切り分けに)。winword /safe で Word も。
outlook /safe	Outlook をセーフモードで起動。

コマンドプロンプト | システム・プロセス

tasklist	実行中のプロセス一覧。
taskkill /PID 番号 /F	⚠ プロセスを強制終了。/IM でプログラム名指定も。
systeminfo	OSのバージョン・メモリ・起動時刻などを表示。
hostname	PC名を表示。
whoami	ログイン中のユーザー名を表示。
shutdown /r /t 0	⚠ すぐに再起動。/s でシャットダウン。
sfc /scannow	システムファイルの破損を検査・修復 (管理者で実行)。
chcp 65001	文字コードをUTF-8に切り替え (文字化け対策)。932 でShift_JISに戻す。
set	環境変数を表示・設定 (そのウィンドウ内だけ)。永続化は setx。
cls	画面をクリア。
gpupdate /force	グループポリシー (会社の設定) をすぐに反映させる。
powercfg /batteryreport	ノートPCのバッテリーの劣化具合をレポート (HTML) に出力。
winget upgrade -- all	インストール済みアプリをまとめて更新 (Windows 10/11 の winget)。
driverquery	インストールされているドライバーの一覧。
schtasks /query /fo LIST	登録されているスケジュールタスクの一覧。

PowerShell | ファイル・フォルダ

Get-ChildItem -Recurse -Filter *.log	ファイルを再帰的に一覧 (ls / dir と同じ)。
Copy-Item 元 先 -Recurse	フォルダを中身ごとコピー。
Remove-Item パス -Recurse -Force	⚠ フォルダを中身ごと削除。まず -WhatIf を付けて対象を確認するのが安全。
Get-ChildItem *.txt Rename-Item - NewName { \$_.Name -replace "old","new" }	ファイル名を一括で置換してリネーム。
Compress-Archive -Path フォルダ - DestinationPath out.zip	ZIPに圧縮。Expand-Archive で展開。
Get-FileHash ファイル	ファイルのハッシュ値 (SHA256) を表示。ダウンロードファイルの改ざん確認に。
Get-ChildItem -Recurse Where-Object LastWriteTime -gt (Get- Date).AddDays(-7)	最近7日以内に更新されたファイルを探す。
Get-ChildItem Select-Object Name Export-Csv list.csv -NoTypeInfoation -Encoding UTF8	フォルダ内のファイル名一覧をCSVに書き出す (Excelで一覧表を作るときに)。

コマンドプロンプト ファイル・フォルダ	
dir	フォルダの中身を一覧表示。/s でサブフォルダも、/b で名前だけ。
cd フォルダ	フォルダを移動。別ドライブへ移るときは /d を付ける。
mkdir フォルダ名	フォルダを作成 (md でも同じ)。途中のフォルダもまとめて作れる。
copy 元 先	ファイルをコピー。
robocopy 元 先 /E	フォルダを中身ごとコピー。大量ファイルや再実行に強い。/MIR はミラー（先にしか無いファイルは削除）なので注意。
move 元 先	ファイルの移動・名前変更。
ren 旧名 新名	ファイル名を変更。ワイルドカードで拡張子の一括変更もできる。
del ファイル	⚠ ファイルを削除（ごみ箱に入らない）。/s でサブフォルダも。
rmdir /s /q フォルダ	⚠ フォルダを中身ごと確認なしで削除。
tree /f	フォルダ構成をツリー表示。/f でファイルも。> で保存すると資料づくりに便利。
type ファイル	テキストファイルの中身を表示。
start .	今いるフォルダをエクスプローラーで開く。
xcopy 元 先 /E /I /Y	フォルダを中身ごとコピー（robocopy が使えない古い環境向け）。
attrib -h -s ファイル	隠しファイル・システムファイルの属性を外す。
certutil -hashfile ファイル SHA256	ファイルのハッシュ値を表示（ダウンロードしたファイルの確認に）。

コマンドプロンプト 検索・テキスト	
findstr "文字列" ファイル	ファイルの中から文字列を検索（grep 相当）。/s でサブフォルダ、/i で大文字小文字を区別しない。
where コマンド名	コマンドの実体がどこにあるかを表示。
fc ファイル1 ファイル2	2つのファイルの差分を表示。
dir /s /b ファイル名	ファイルをサブフォルダまで探して、見つかったパスを表示。
コマンド clip	コマンドの結果をクリップボードにコピー。

PowerShell テキスト・CSV	
Get-Content ファイル -Tail 50 -Wait	ログの末尾を表示し、追記を監視（tail -f 相当）。
Select-String -Path *.log -Pattern "error"	複数ファイルから文字列を検索（grep 相当）。
Import-Csv in.csv Export-Csv out.csv -NoTypeInfoation -Encoding UTF8	CSVを読み込んで書き出す（文字コード変換や列の加工に）。
Get-Content in.txt -Encoding Default Set-Content out.txt -Encoding UTF8	Shift_JIS のファイルを UTF-8 に変換（Windows PowerShell 5.1）。
(Get-Content ファイル).Count	ファイルの行数を数える。
Get-Clipboard / Set-Clipboard	クリップボードの読み書き。

PowerShell システム・プロセス	
Get-Process Sort-Object CPU -Descending Select-Object -First 10	CPUを多く使っているプロセス上位10件。
Stop-Process -Name プロセス名	⚠ プロセスを終了。
Get-Service Where-Object Status -eq Running	実行中のサービス一覧。
Set-ExecutionPolicy RemoteSigned -Scope CurrentUser	スクリプト（.ps1）を実行できるようにする。
\$PSVersionTable	PowerShell のバージョンを表示。
Get-History	このセッションで実行したコマンドの履歴。
Get-CimInstance Win32_OperatingSystem Select-Object LastBootUpTime	最後に起動した日時（再起動したかの確認に）。
Get-ComputerInfo Select-Object OsName, OsVersion, CsTotalPhysicalMemory	OS名・バージョン・メモリ容量を表示。
Restart-Computer	⚠ PCを再起動。

PowerShell ネットワーク	
Test-NetConnection ホスト -Port 443	特定ポートにつながるか確認（ping では分からないとき）。
Invoke-WebRequest URL -OutFile ファイル	ファイルをダウンロード。
Invoke-RestMethod URL	APIを呼んでJSONをオブジェクトとして受け取る。
Get-NetIPAddress -AddressFamily IPv4	IPv4 アドレスの一覧。

Git（Git for Windows） 基本	
git status	変更されたファイル・ステージ状況を確認。
git add -p	変更を部分ごとに確認しながらステージ。
git commit -m "メッセージ"	コミット。
git commit --amend	直前のコミットを修正（push 済みなら原則使わない）。
git log --oneline --graph -all	ブランチの分岐を含めて履歴をコンパクトに表示。
git diff --staged	ステージ済みの変更を表示（コミット前の確認に）。

Git（Git for Windows） ブランチ	
git switch -c ブランチ名	ブランチを作って切り替え（git checkout -b と同じ）。
git branch -d ブランチ名	マージ済みのブランチを削除。
git merge ブランチ名	指定したブランチを今のブランチに取り込む。
git rebase main	今のブランチを main の先頭に付け替える。

コマンドプロンプト ネットワーク	
ipconfig	IPアドレス・デフォルトゲートウェイを表示。/all でMACアドレスやDNSも。
ipconfig /flushdns	DNSキャッシュを消去。サイトの切り替え直後につながらないときに。
ping ホスト	相手に届くか確認。-t で止めるまで送り続ける。
tracert ホスト	相手までの経路（どこで止まっているか）を調べる。
nslookup ドメイン	ドメインのIPアドレス（DNS）を調べる。
netstat -ano	通信中・待ち受け中のポートとプロセスIDを表示。
curl URL	URLにアクセスして中身を表示（Windows 10 以降は標準搭載）。-I でヘッダーだけ。
ipconfig /release && ipconfig /renew	IPアドレスを取り直す。ネットにつながらないときの定番。
getmac /v	MACアドレスを一覧表示。
arp -a	同じネットワーク内で通信した機器のIPとMACアドレスの一覧。
netsh wlan show profiles	PCに保存されているWi-Fiの一覧。
net use Z: \\サーバー\\共有	共有フォルダをネットワークドライブ（Z:）として割り当てる。解除は net use Z: /delete。

Git（Git for Windows） リモート	
git pull --rebase	リモートの変更を取り込む（マージコミットを作らない）。
git push -u origin ブランチ名	新しいブランチを初めて push。
git fetch --prune	リモートで消えたブランチの参照も掃除しつつ取得。

Git（Git for Windows） やり直し	
git restore ファイル	⚠ 作業中の変更を取り消す（最後のコミットの状態に戻す）。
git restore --staged ファイル	add を取り消す（変更そのものは残る）。
git reset --soft HEAD~1	直前のコミットを取り消す（変更は残る）。
git revert コミットID	指定したコミットを打ち消すコミットを作る（push 済みでも安全）。
git stash	作業中の変更を一時退避。git stash pop で戻す。
git reflog	HEAD の移動履歴。消したと思ったコミットを取り戻すときに。

Git（Git for Windows） 調査	
git blame ファイル	各行を最後に変更したコミットと人を表示。
git log -S "文字列"	その文字列を追加・削除したコミットを探す。
git config --global core.quotePath false	日本語ファイル名が \346\227... のように表示されるのを直す。